

世界を変えよう基金報告書

団体名：インドワークキャンプ団体 namaste!

活動内容：インドのハンセン病コロニーにおいてワークキャンプ活動を実施し、回復者の社会的尊厳の回復と経済的自立を促進すること。

活動期間：2023/2/23~2023/3/17

活動場所：インド西ベンガル州

マニプールコロニー、ビシュナプールコロニー

プログラム実施に至った経緯と目的

私たちはインド国内のハンセン病回復者とその家族に対する差別解決を目的として活動しています。ハンセン病コロニーの人々は社会から差別を受けてきた歴史があり、現在でも貧困に直面し進級・進学が難しく、定職に就くことができていない人がいます。また主に高齢世代では、物乞いで生計を立てている人も少なくありません。

私たちはワークキャンプを実施することでコロニーの生活環境を改善するとともに、外部の人が抱く差別意識とハンセン病コロニーの人々自身もつ被差別意識の解消を目指しています。

今回のワークキャンプでは約 3 年間渡航規制によりワークキャンプが行えていなかったコロニーを訪問し、現状の正確な把握を行うとともに村人や現地カウンターパートとの関係強化を目指して渡航しました。

2023 年春キャンプ報告

私たちは 2023 年の春、2 つの活動地でワークキャンプを実施しました。活動地はインド西ベンガル州に位置するビシュナプールコロニー、マニプールコロニーの 2 か所です。ビシュナプールコロニーは人口約 120 人、マニプールコロニーは約 1000 人のコロニーで規模も異なり、生活水準や抱えている課題も異なります。以下にコロニーごとのキャンプの内容をまとめます。

【ビシュナプールコロニー】

○キャンプ内容

今回行った主なプロジェクト（以下 PJ）は村人史 PJ、歯磨き PJ、読み聞かせ PJ、お掃除 PJ、アクセサリ PJ、ADIHATTA 共同教育 PJ、アーカイブ PJ です。村人史 PJ では、お

年寄りを中心に様々な世代の村人にその人の人生や生活状況について話を聞きました。歯磨きPJでは、前回行った子供たちを対象とした歯磨き講習のアフターリサーチと、現在の村人の歯磨き事情の調査を行いました。読み聞かせPJでは、前回渡航時に寄付した絵本で読み聞かせを行い、クイズやお絵描きをしました。お掃除PJでは、滑りやすい水場を中心に日本から持参した道具で掃除を行い、苔やヘドロを撤去しました。アクセサリーPJでは、村の女性と一緒にアクセサリーを作り、職業スキルを確認するとともに、就労状況などを調査し今後のPJ継続可能性を探りました。ADIHATTA 共同教育PJでは、コロニー外のアートスクールにコロニーの子どもたちを連れていき、日本の図工の授業をコロニー外の子どもたちと交流しながら受けてもらいました。アーカイブPJでは、村や村人の生活の変化を記録するために、建物や村人を動画によって撮影しました。

○活動を通じて得た成果・反省

村人史PJでは、現在のビシュナプール地域ではハンセン病に対する差別が昔に比べてほとんどなくなっている、あるいは完全になくなっていると村人自身が感じていることが分かりました。また初めてワークキャンプに参加したメンバーにとってはハンセン病にかかったことのある人と初めて話す機会となり、活動に対する意識の変化につながりました。歯磨きPJでは、村の若い世代の多くが歯ブラシを持っていることが分かりました。一方でリサーチを実施したのが平日の昼間であったこと、質問項目が多かったことから母数が少なく年齢層が偏ってしまったことが反省として挙げられます。今後は歯ブラシを使った正しい磨き方の講習を継続するとともに、実行日時を平日の夕方や休日にし、十分な母数を確保した上で今回調査できなかった歯ブラシの状態をリサーチする予定です。読み聞かせPJでは、普段鍵のかかった部屋にしまい込まれていて絵本を読む機会が少ない子どもたちに、絵本を楽しむ時間を提供することができました。一方で半年に一度の活動では子どもたちに与える影響力が弱いという課題があるので、オンラインの読み聞かせ企画の頻度を増やしたり、空き部屋を活用して子どもたちが自由に入れる図書館を作ったりすることを今後計画しています。お掃除PJでは、水場のレンガが色を取り戻すくらいにコケやヘドロを除去できた一方で、日本人がいなくても正しい方法で掃除をする習慣を身に着けることが目標であったのに、大人の参加者が非常に少なく、村人を巻き込んだイベントにはなりません。また村人が掃除をしていると聞いていた木曜日にコロニーを訪問することができなかったため、様子を見られなかったことも反省点として挙げられます。アクセサリーPJでは、女性の職業スキルは私たちが想定していたより高く、また内職への一定の需要と内職をする時間があることが分かりました。一方で、今回は日本で材料（ビーズ）を調達したために原材料が高く、利益が出ないことが想定されます。そのため今後は現地調達可能なインド刺繍リボンを利用したアクセサリーの製作を進めていく予定です。またこの就労プロジェクトに参加する女性を確定させる作業も進めていく予定です。ADIHATTA 共同教育PJでは、普段コロニーの子どもたちは外部の同年代の子と接する機会が少ないため、交流の良い

機会になりました。また渡航の様々なサポートをお願いしている ADIHATTA の PJ に参加することで、関係を強化することができました。一方で、事前準備の労力のわりに目立った効果が期待できなかったため、この PJ は今後は実施しない予定です。アーカイブ PJ では、村に滞在する時間が限られていたために空白の時間が生まれてしまったこと、撮影時間に村人が少なかったことから予定していた映像を撮りきることができませんでした。一方で建物などはしっかり映すことができました。成果は今後この PJ を継続し、映像をためていくことでコロニーの変化を記録することができると考えています。

○プログラム達成状況

全体的に、どの PJ もリサーチが不十分だったと感じています。調査する時間と人数が十分に確保できませんでした。この点については、次回以降コロニーに泊まり込みで活動する可能性が高いため、さらに PJ の数を減らすことで解決できると考えています。アクセサリ PJ は、女性の職業スキルと内職の需要を把握することができたため、次回以降本格的に就労 PJ として進めていく予定です。歯磨き PJ は、子どもたちが歯ブラシを持っているという状況を把握し、次回以降の PJ の方向性を定めることができました。お掃除 PJ については、掃除をすること自体は実行できましたが、村人の参加状況が良くありませんでした。

○今後の抱負

今後の活動方針として、主に①水場の清掃・修理、②アクセサリ PJ、③図書館 PJ の三点を中心に進めていく予定です。①は、村人の要望が最も強い活動ではありますが、水場の修理費の見通しがまだ立っていないのと、村人が修理された水場を維持できるのかという問題があり、大規模な清掃を行うか、修繕を行うかを検討中です。②は、今回実施した PJ の中で最も長期的に効果を望める PJ だと判断し、村人の反応も良かった一方で、就労 PJ として成立させるためには大きな労力を要すると考え、今後中心に据える判断をしました。③は、今後空き部屋を図書館として開放し、コロニーの村人を管理者として雇用する予定です。オンラインでの読み聞かせも月二回に頻度を増やし、追加の本も寄付する予定です。





【マニプールコロニー】

○キャンプ内容

今回行った主なプロジェクト（以下PJ）は、最終リサーチPJ、図書館PJ、歯磨きPJ、映像PJ、じじばばPJ、パーティーPJです。

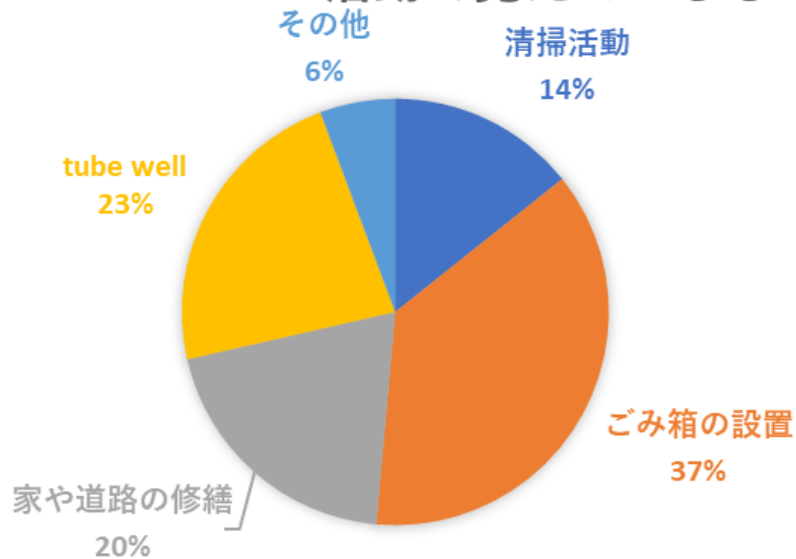
最終リサーチPJは、村人へのインタビュー調査と、コロニーのリーダーである Naba Kumar Das 氏への聞き取り調査の2つの調査活動で構成されています。

○活動を通じて得た成果・反省

村人へのインタビュー調査は、namaste!の活動によって村人にもたらされた心理的变化を調査し、ワークキャンプ活動の意義を見つめ直すこと、大学進学や比較的収入の高い職につくことができた要因を知ること、の2つを目的に村人に対してインタビューを行いました。特に2点目は、マニプールコロニーが自治組織を持ち、他のハンセン病コロニーに比べ高い生活水準や教育水準を達成していることからその背景に迫る調査を行いました。

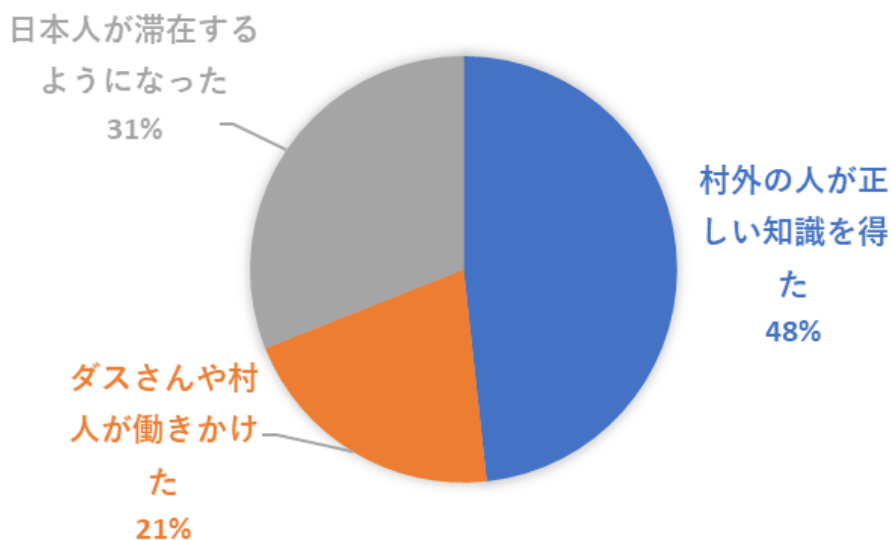
以下では、調査結果から適宜抜粋し、得られた情報をまとめます。まず、namaste!の活動で覚えているもの質問1-2で訊きました。結果として、主にインフラ整備の活動を覚えている村人が多く、私たちのワークキャンプに期待していることは主にインフラであるという事が言えます。

1-2 NAMASTE!の活動で覚えているもの



また、ハンセン病を理由とした差別について、namaste!が訪問した2015年から変わってきているかという質問に対しては、100%がYesと回答しました。質問5-2はその理由について尋ねたもので、ここであげたような3つの要因が絡んで差別が解消されてきたと考えられます。

5-2 村外の人との差別が変化している要因



村長へのインタビュー調査では、namaste!の活動の意義や日本人とコロニーの関わりについて、以下のような回答を得られました。

・namaste!メンバーがユースキャンパー(以下YC、過去のワークキャンプにおいて namaste!のキャンパーと共同でプロジェクトを行った若者たち)と一緒に活動し、たくさん話をしたことで、彼らは自信を持つようになった。外国人がコロニーの発展やコロニーを清潔にするために働いているのを見たことで彼らはコロニーに対する責任感を持つようになった。

一方、YCが活動を続けられなくなったのか家族の状態が変わったことが大きい。彼らは家族のために働いて稼がなければならず、清掃活動を続ける事ができなかった。

・子供たちの考え方が変わった。彼らの未来にとってそれはとても良い事であると思う。

・日本人がコロニーに滞在することで、コロニー外との壁はなくなった。日本人がコロニーに滞在できるなら、他のコロニー外の人でも来ることができる。周囲の住民の考え方は変化し、コロニーの人と気軽に交流するようになった

・また、日本人キャンパーの懸命に働く姿、時間を守る姿勢、規律などはコロニーの学生の良い手本になった。

・できる事ならば、namaste!にはコロニー内の貧しい人々の家を直してくれたらより良いと感じている。

このような聞き取り結果から、namaste!の活動に関するまとめとして以下の事が考えられます。

①namaste!が従来 WC の効果として狙っていた日本人が滞在することにより、村外の人の差別意識を変化させるという点は達成されていると考えられる。

②namaste!の活動で覚えているものについての質問や村長インタビューより、村人が日本人に対して求めていることはインフラ整備であるといえる。

③YCとしてコロニーの若者たちを巻き込んで活動する形は、村の将来を担う若者の責任感の醸成に役立ち、また日本人の規律を守る姿勢や清掃などの文化は子ども達をはじめとする村人に良い影響を与えられる。

このPJに対する反省としては、以下の2点が挙げられます。2点に共通するのは事前の想定不足であり、次回ワークキャンプからは事前にもっとコロニーの状況を知ってから渡航できるようにしたいです。

①村内の格差が想定よりも大きく、インタビュー対象が成功している村人に偏ってしまった。

②知識不足により、政府からの助成金などの話を十分に理解できなかった。

図書館PJでは村の小学生に対して読み聞かせ活動を行いました。絵本は、日本の絵本をESA 提供によるベンガル語翻訳シールによりベンガル語に翻訳されたものを使用しました。基礎的な読解力の向上に貢献するとともに、村内の若者・高校生を巻き込むことで子供たち

との交流の機会を増やすことを目指しました。

実際に、子供たちは私たちの絵本に興味を持ち、楽しそうに読んでいました。絵本の内容理解に関しては、学年を混合したグループで絵本の内容に関する評価シートを書いてもらったため、正確な回答を得る事はできませんでしたが、ある程度正しい理解をしている様子が見て取れました。

また、若者が村のために活動する重要性を感じる事ができました。PJを手伝ってくれた村の高校生からは、

- ・以前から子供たちに関わりがあったわけではなく今回のようなPJに初めて参加した。
 - ・子供たちと話すことが好きだから、今後も関わりを続けたい
- といった回答を得ました。

歯磨きPJでは、過去のワークキャンプで歯磨き教室を実施したこと、2021年の調査から歯磨きの習慣が村人の間で定着していることを背景に、歯磨きが実際にどう行われているのかを知ることを目的に実施しました。

結果としてはほとんどの村人が歯ブラシ、歯磨き粉を保有しているが、半数以上の世帯で毛先が開いているなど、保管状況や交換頻度に課題が残っていることが確認されました。

このPJの反省点としては、通訳者によって村人の話の内容が要約されすぎてしまい、細かなニュアンスを聞き出せなかった点が挙げられます。

映像PJはコロニーの様子を後世に残すことを目的に、動画作成を行っており、今回のワークキャンプではその素材撮影を行いました。結果として、コロニーの様子や村人の様子を詳細に記録することができ、今後に向けて有益な情報を得る事ができました。

じじばばPJはコロニー内の老人ホームに住む第一世代の高齢者との交流イベントを行いました。この世代は特にハンセン病によるひどい差別を受けてきた世代でもあり、少しでも日本人と交流を持ち楽しい時間を共有できるようにしたいという思いで行いました。結果として、ゲームなどのアクティビティを通じて交流を深める事ができ、キャンパーと高齢者が積極的に関わる事ができました。

最後に、パーティーPJではキャンプの最後に村人を日本人が感謝を伝え合う機会となり、ダンスなどを通じて楽しい時間を過ごす事ができました。

○プログラム達成状況

今回はすべてのプロジェクトを期間内に行う事ができ、様々な情報を得る事ができました。特に、最終リサーチPJでは村人や村長から namaste!の活動の総括となるような意見を

聞くことができ、私たちがワークキャンプを行ってきたことの意義を知ることができました。

今回のキャンプでは2日ほどピアルドバコロニーという別のコロニーを訪問し、ワークキャンプ開拓に向けた調査に参加する予定でしたが、メンバーの体調を考慮し、キャンセルすることになりました。このような事情によりマニプールコロニーに滞在する時間に余裕ができた事ですべてのプログラムを実施することができました。

○今後の抱負

今回マニプールコロニーで得た経験や知識をもとに、今後のワークキャンプを充実させていきたいです。マニプールは他コロニーに比べ生活や教育の水準が高いため、他のコロニーについて考える際の一つの基準として今回マニプールに行っていないメンバーも理解を深められるように情報共有を行いたいです。



